



Philosophy Note

「いのち」を活かし、楽しく意味ある仕事・人生に

■ 「いのち」とは

「いのち」とは、『命』と書き「生物が生きていく原動力。寿命。一生。生涯。」を、また、『生命』（＝いのち）と書き「物事の存立にかかわるような大切な点やもの」を意味します。つまり、「いのち」は森羅万象（宇宙空間に存在する数限りない一切のものごと。）に宿ることになります。そして、その宇宙に存在するあらゆるものには、絶えず宇宙に遍在する生命エネルギーが、命（＝「いのち」）を吹き込んで全ての存在を「生かそう」として機能しているとも言われています。さらに、皇族・大臣・事業家・俳優を始め直接薫陶を受けたものは10万人を数え、延べ100万人を越える「財団法人 天風会」を創設した中村天風師は、「本当に幸福な人生を生きたいと思うなら、何よりも忘れてはならない必要な人生の心掛は、自分の命に対する自己認証を高度にすること。」と、自らの人生に於ける「いのち」の大切さを覚知することだと説いています。

■ 「いのち」を活かすには

そして、中村天風師は、その著『成功の実現』の中で、「いのち」を活かすには「自分の心（＝考え方・意識）を明るく、朗らかに、生き生きとして、勇ましく、どんな場合であろうとも、心の輝きを曇らせずに生きようとする。」ようにすることが重要で、そしてそれは、「造物主（＝サムシング・グレート＝宇宙や生命をつくり出した偉大な存在）の心と同様の心持ちになること。」つまり、「そのようにすると、造物主の無限の力が生命の中で無条件に自然と同化力を増大してくれる。」と説いているのです。

また、「人間は、ただそれだけの存在で考えれば極めて小さいが、しかし、その心を通じて常に、自分の生命と造物主とが結びついている。それは、運河の水が運河だけで考えると極めてわずかな水量しかないようだけれど、あれは、大海とつながって存在しているのと同様なのだ。」と例えています。つまり運河は、見た目は小さくても無限の大海の水量とつながっており、心の持ち方を積極的にしていくと、結果として推進力が増し「引っぱる力」に「押す力」が加わり、人生が大きく好転することになるので、心の持ち方が「いのち」を活かす上で極めて重要なのです。

■ 「楽しく」、意味ある仕事・人生にするには

「楽しい」とは、望みが満ち足りて不平がなく、楽しく心地よい心持ちの状態を言い、分かり易く言えば、それは、「自分が役に立っている。」「自分が必要とされている。」など、自己の存在が認められている生活環境の中で認識されるものかと思われます。従って、楽しく意味ある人生を過ごすには、中村天風師の説く「自分の命に対する自己認証を高度にする。」ことが必要で、そのためには自分の「いのち」の源であるサムシング・グレート存在を自覚し、謙虚で感謝のある反省の日々を送ることが不可欠となるのです。具体的には、個人生活では、『人生二度なし』の根本認識に徹し「生命あることに歓喜と感謝して『限りある人生、共に限らない真の豊かさを求めて』自らの人生（＝生まれてから死ぬまでの間）を全機現することが大切になるのです。また、仕事に於いては、人・物・金・情報・時間・空間などの全ての経営資源が保有する「いのち」を、最適に活かす（有効に使用する。ムダにしない。）ことを基本におくことが、大事になるのです。

